

Zoomセミナー用資料

国内10-12月期決算レビュー ～来期に向けての注目銘柄は？～

2026年2月10日

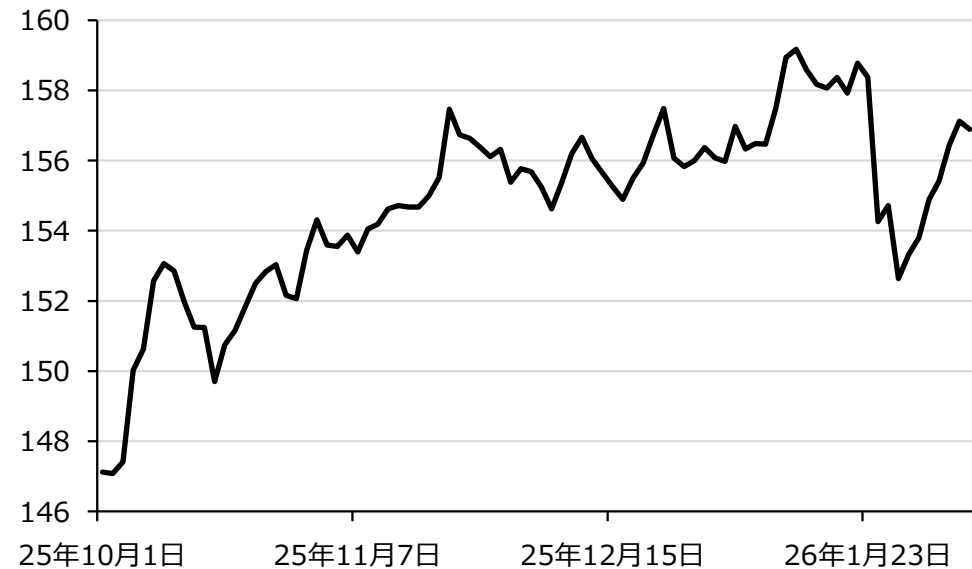
岡三証券 投資戦略部
日本株式戦略グループ

ストラテジスト 福嶋 祥歩
入間田 陸

25年10-12月を振り返る

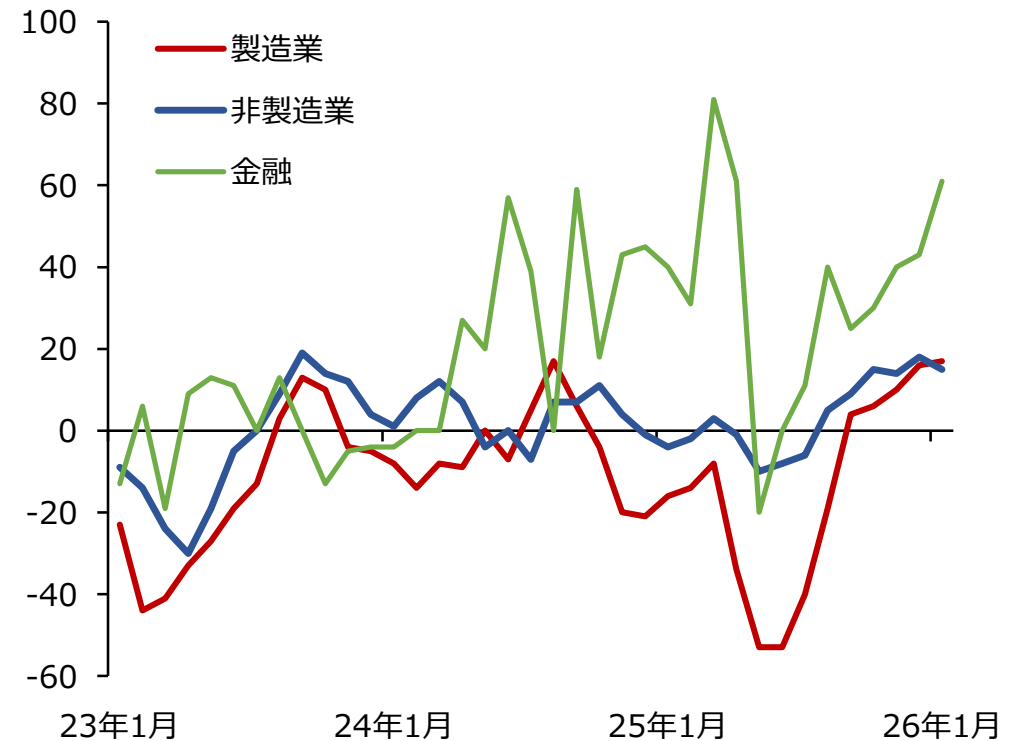
ドル円相場の推移（日次）

(1ドル=円)



出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在 ※17時の値

QUICKコンセンサスDI



出所：QUICK 作成：岡三証券 直近は2026年1月分

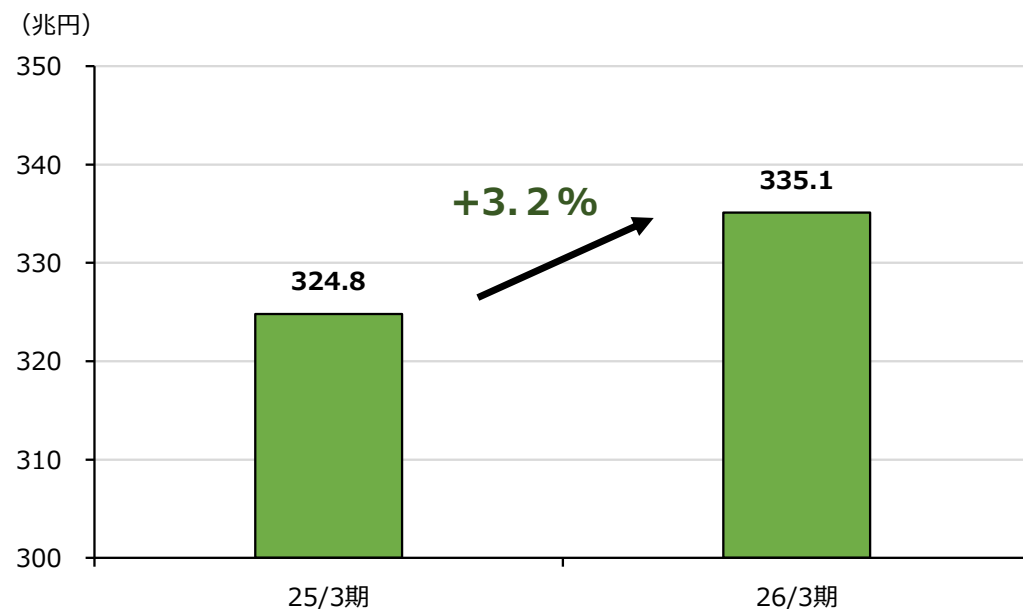
日銀短観（12月調査）
輸出企業の事業計画の前提となっている想定為替レート

大企業・製造業 25年度 **1ドル=146.53円**

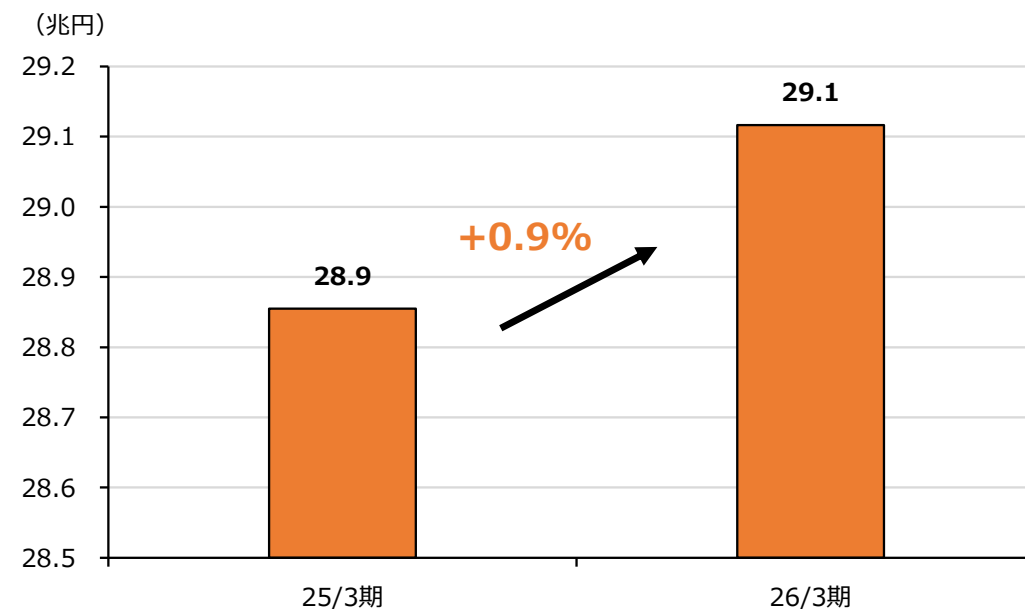
主要企業10-12月期決算の総括

TOPIX採用26/3期3Q累計の業績（前年同期比）

売上高



営業利益

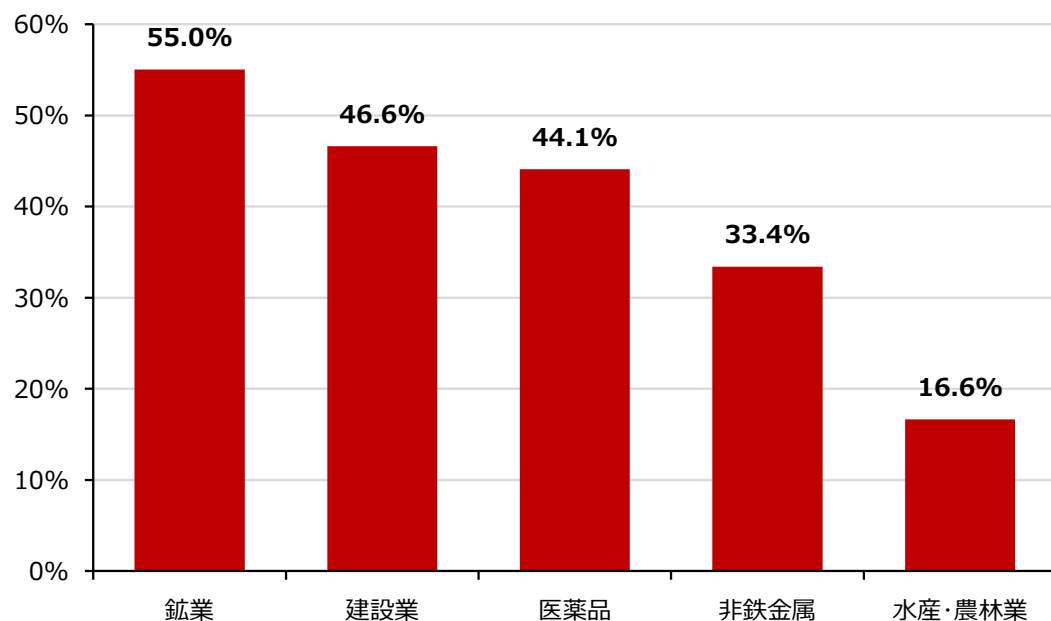


出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在
※25/3期から継続してデータが取得可能な574社（金融・その他金融・ソフトバンクG除く）が対象

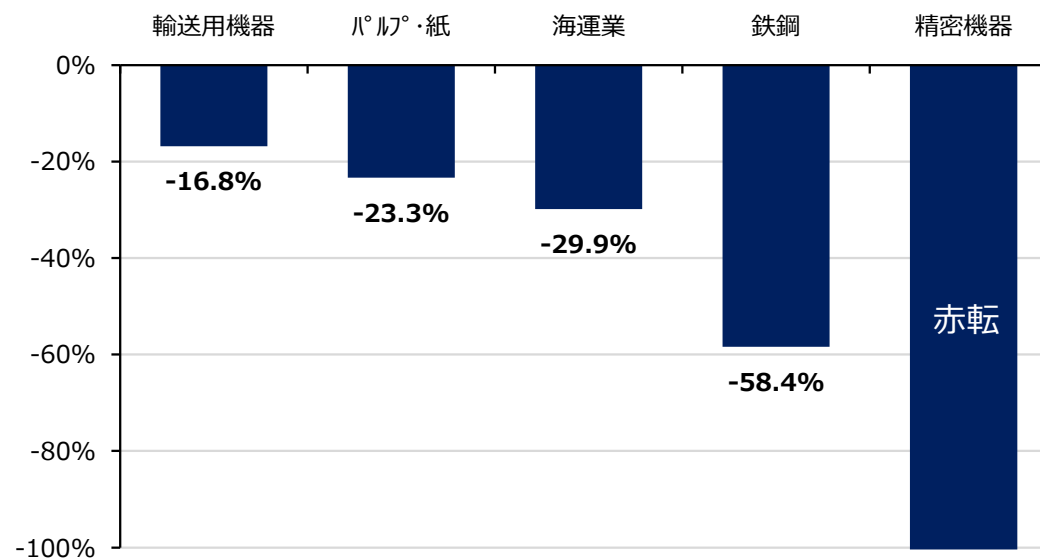
鉱業、建設業等が好決算を発表

東証33業種別：26/3期3Q累計の営業利益伸び率（前年同期比）

上位5業種



下位5業種

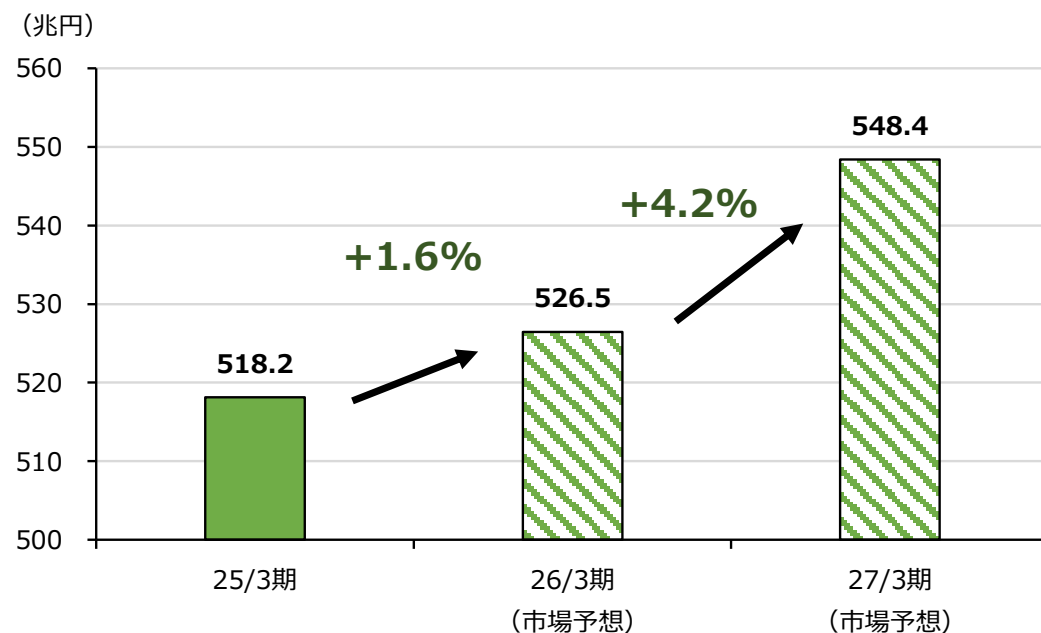


出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在
※25/3期から継続してデータが取得可能な574社（金融・その他金融・ソフトバンクG除く）が対象

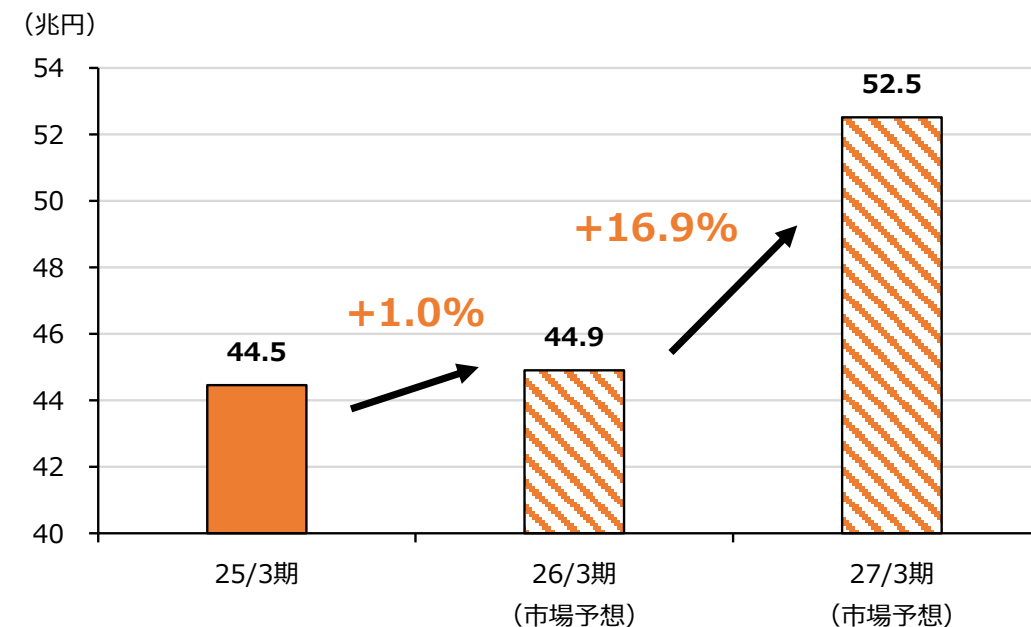
主要企業の来期の業績見通し

TOPIX採用の27/3期の業績見通し（QUICKコンセンサス予想、前期比）

売上高



営業利益



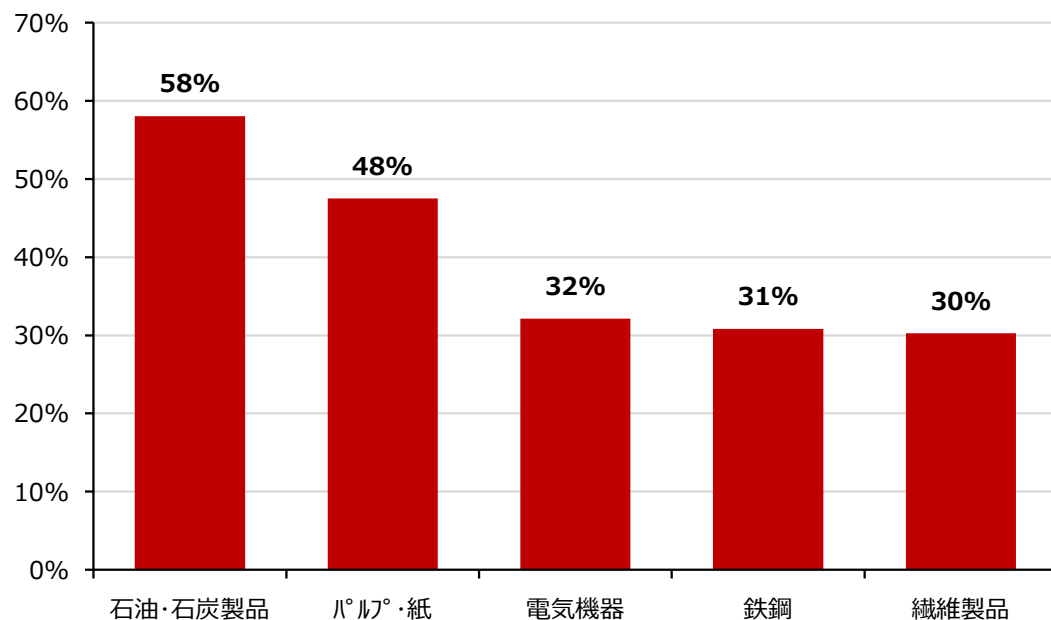
出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在
※予想はQUICKコンセンサス予想（3社以上）

※25/3期から継続してデータが取得可能な392社（金融・その他金融・ソフトバンクG除く）が対象

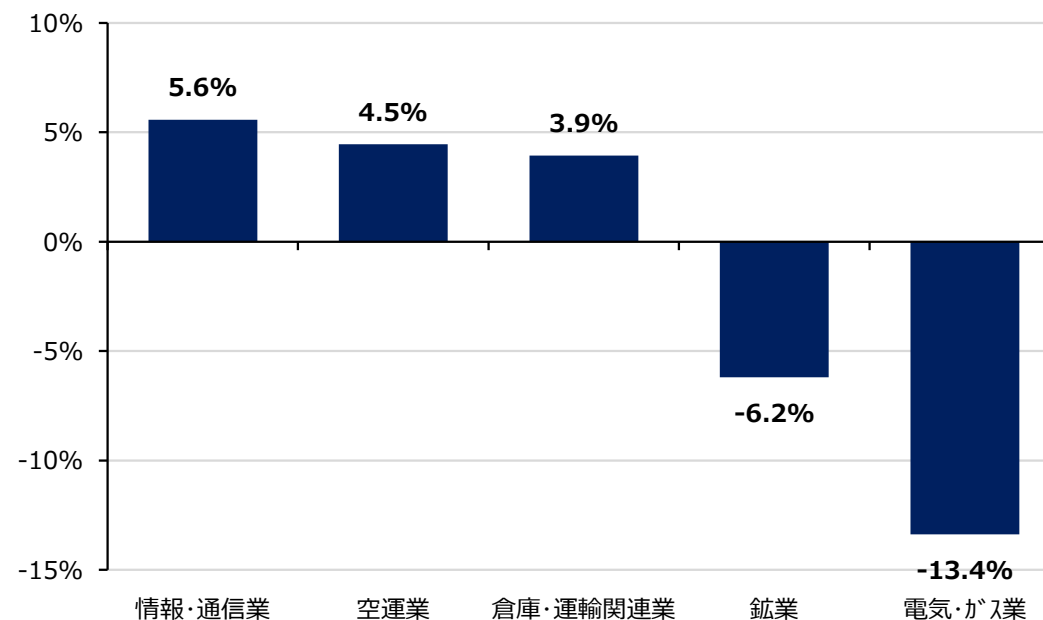
石油・石炭製品、パルプ・紙等の業績見通しが良好

東証33業種別：27/3期の営業利益伸び率（前期比）

上位5業種



下位5業種

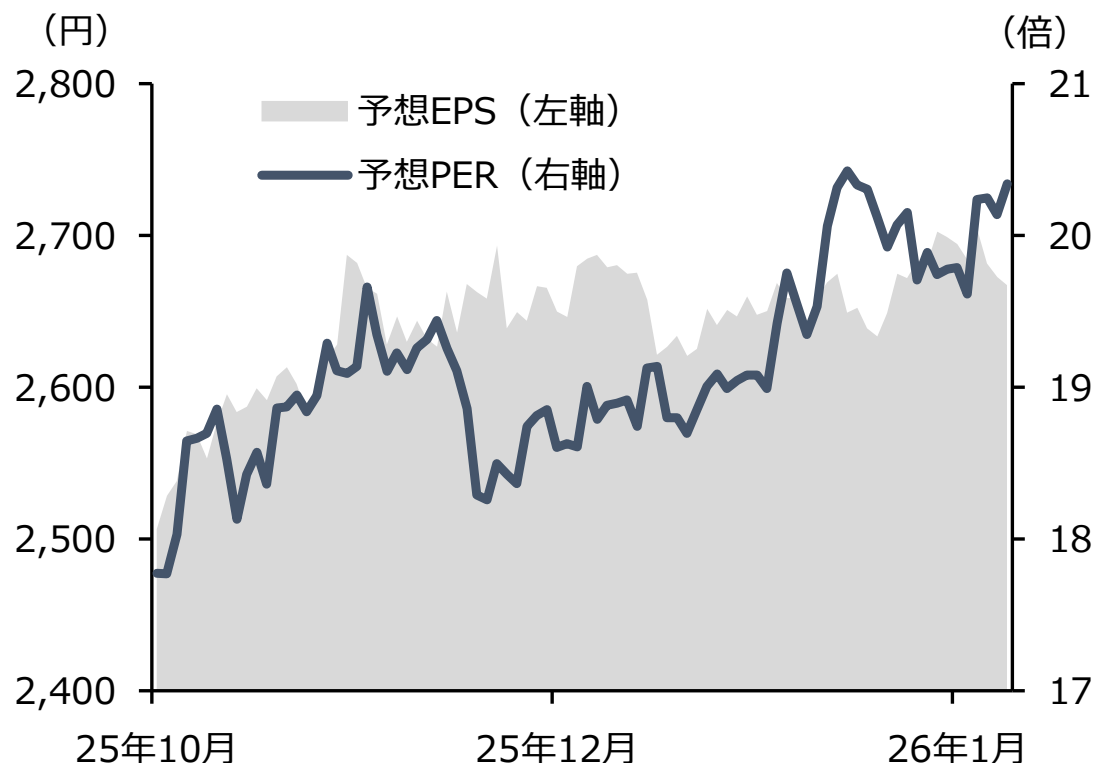


出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在
※予想はQUICKコンセンサス予想（3社以上）

※25/3期から継続してデータが取得可能な392社（金融・その他金融・ソフトバンクG除く）が対象

企業の業績改善期待から日経平均株価は6万円が射程圏内に

日経平均株価の予想EPSと予想PER（日次）



出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在

日経平均株価の上昇シミュレーション

	予想EPS (円)	予想PERごとの日経平均株価 (円)					
		16倍	17倍	18倍	19倍	20倍	21倍
25%増益	3,334	53,349	56,683	60,018	63,352	66,686	70,021
20%増益	3,201	51,215	54,416	57,617	60,818	64,019	67,220
15%増益	3,068	49,081	52,149	55,216	58,284	61,352	64,419
10%増益	2,934	46,947	49,881	52,816	55,750	58,684	61,618
5%増益	2,801	44,813	47,614	50,415	53,216	56,017	58,817
2/6 現在	2,667	42,679	45,347	48,014	50,682	53,349	56,017

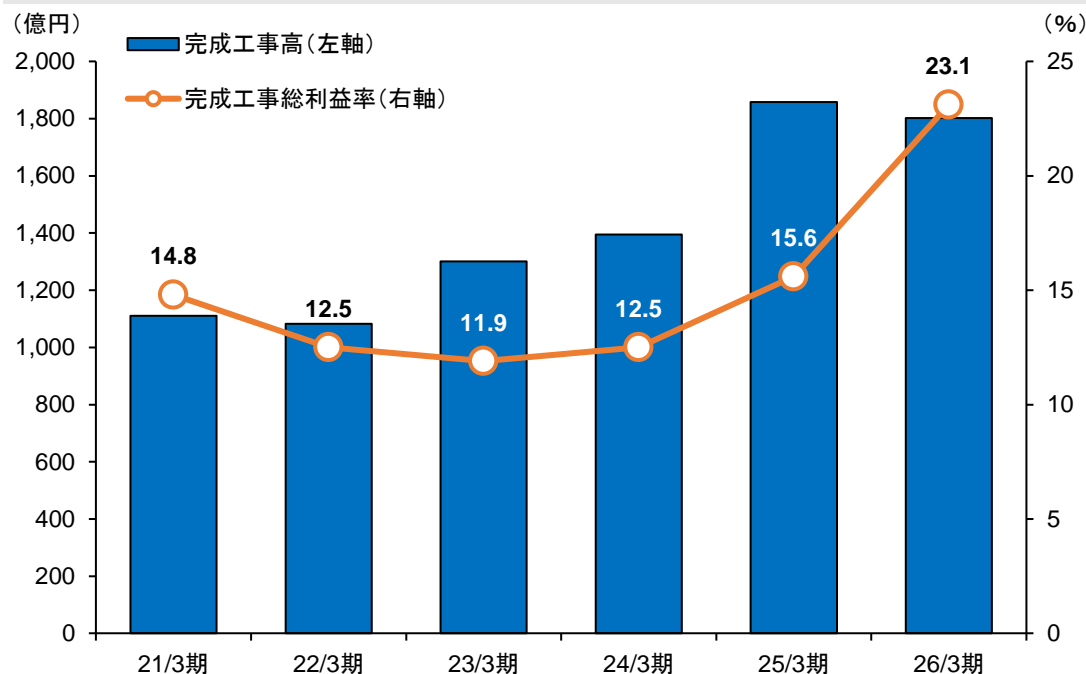
出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在
※史上最高値（54,720円：2月3日）を上回る部分を赤字で表示

ダイダン（1980 プライム）

Point !

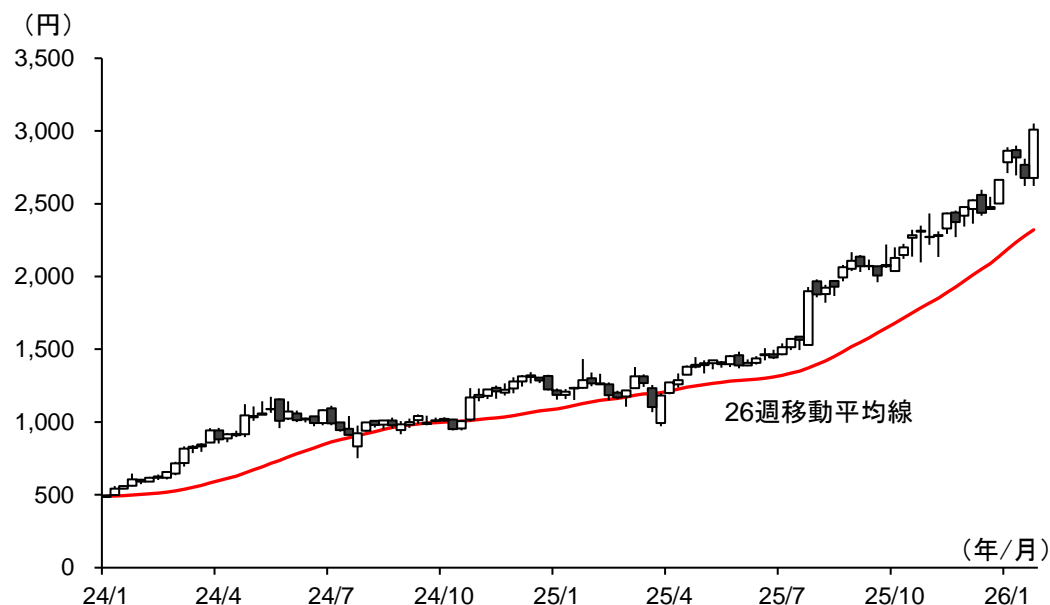
- 主力の空調衛生工事のほか、電気・水道衛生の設計施工などを手掛ける総合設備工事大手
- 26/3期3Q累計は、前年同期比3%減収となった一方、採算性が向上し、同62%営業増益
- 工事の利益改善が想定よりも上振れることなどを理由に、通期計画を上方修正

▼完成工事高と同総利益率の推移（3Q累計）



出所：会社資料 作成：岡三証券

▼株価チャート（週足）



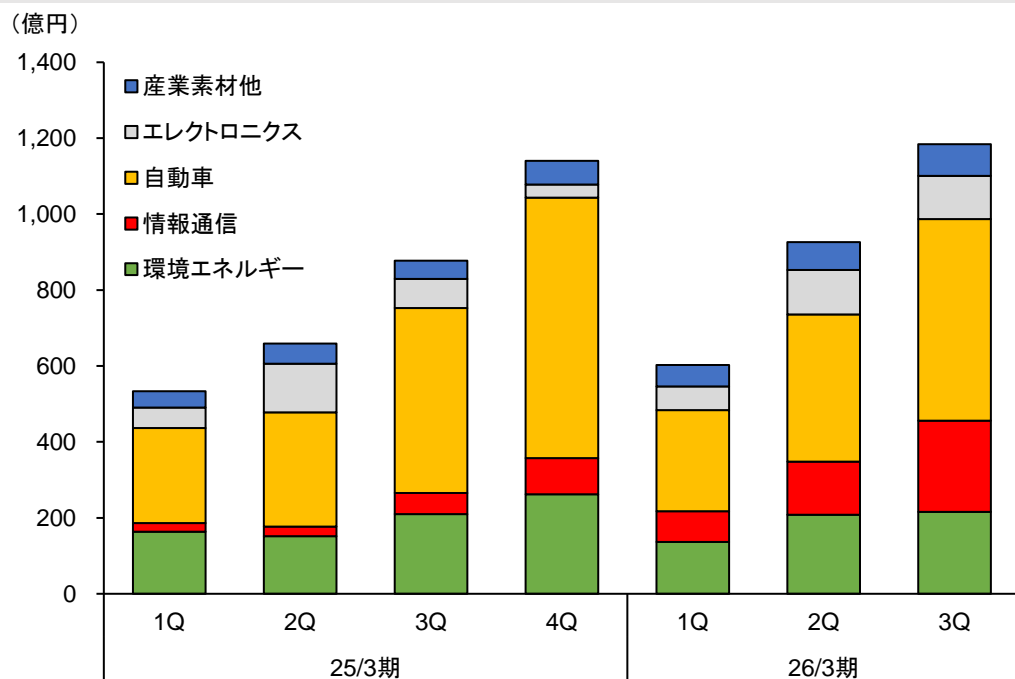
出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在

住友電気工業（5802 プライム）

Point !

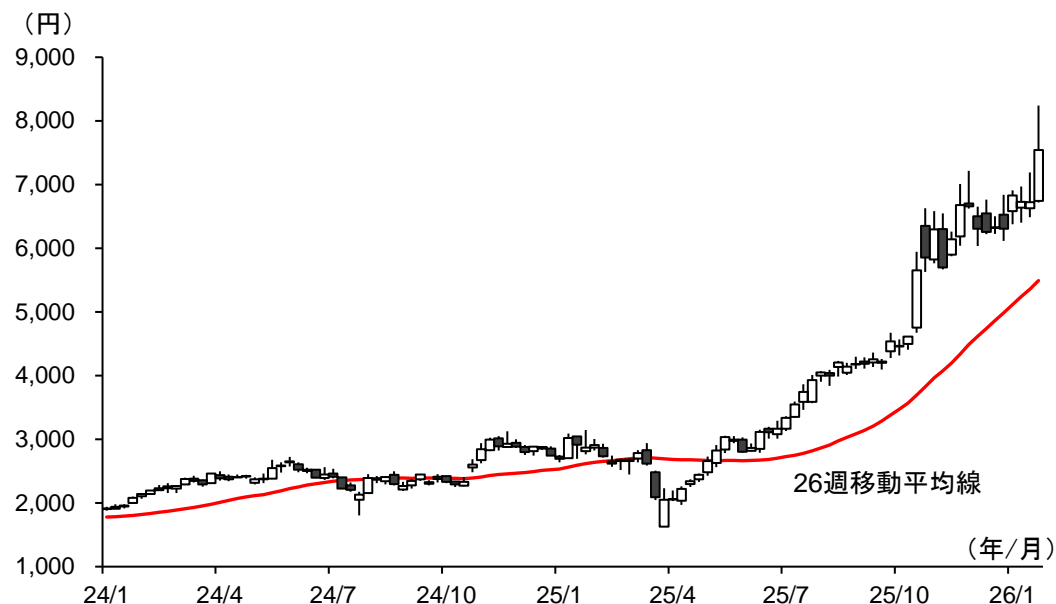
- 自動車向けワイヤーハーネスで世界的大手の一角を占める。近年は、超高压電力ケーブルや光デバイスなどを強化
- 3Q決算に併せて、今期3度目となる上方修正。期初の減益計画から一転、26/3期は前期比65%最終増益へ
- 需要旺盛なデータセンター向け製品に注力する。29/3期の生産能力は、26/3期比で2倍に高める計画

▼セグメント別営業利益の推移（四半期）



出所：会社資料 作成：岡三証券
※消去又は全社は考慮せず

▼株価チャート（週足）



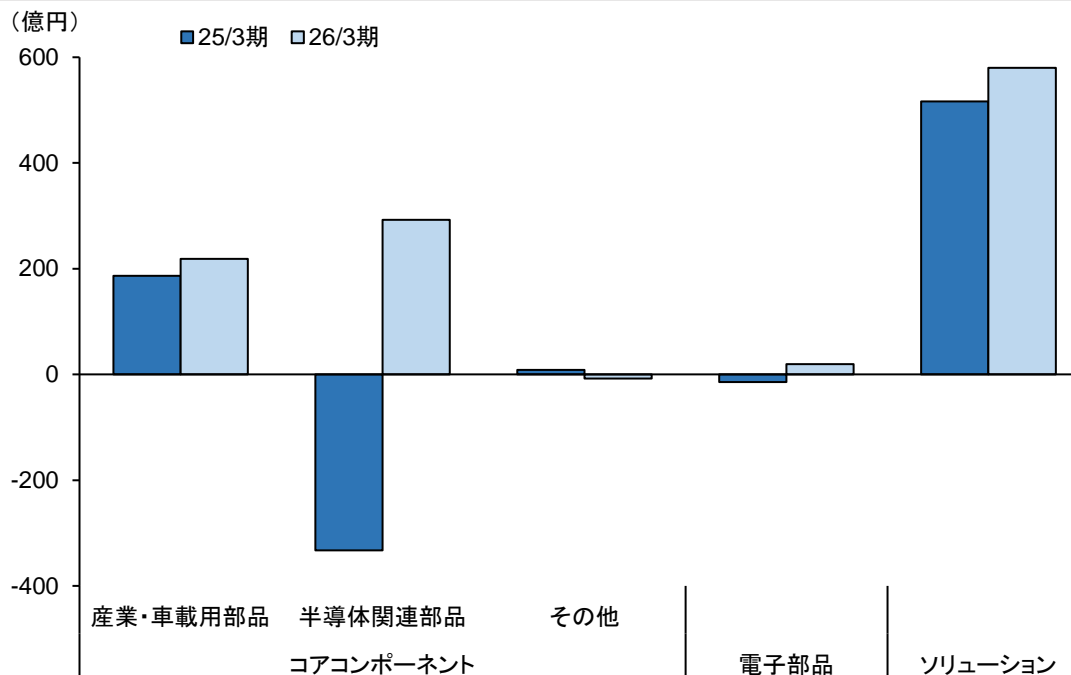
出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在

京セラ (6971 プライム)

Point !

- ファインセラミックの技術を核に、半導体関連や電子部品関連など、幅広い製品を展開
- 26/3期3Q累計は、前年同期比5.8倍の大幅営業増益。一時損失の減少や構造改革の進展などが貢献
- ROEを主要経営課題として各種施策を実行。将来目標は10.0%以上（26/3期見通しは3.6%）

▼主なセグメント別利益の推移（3Q累計）



出所：会社資料 作成：岡三証券
※その他の事業や本社部門損益当を考慮せず

▼株価チャート（週足）



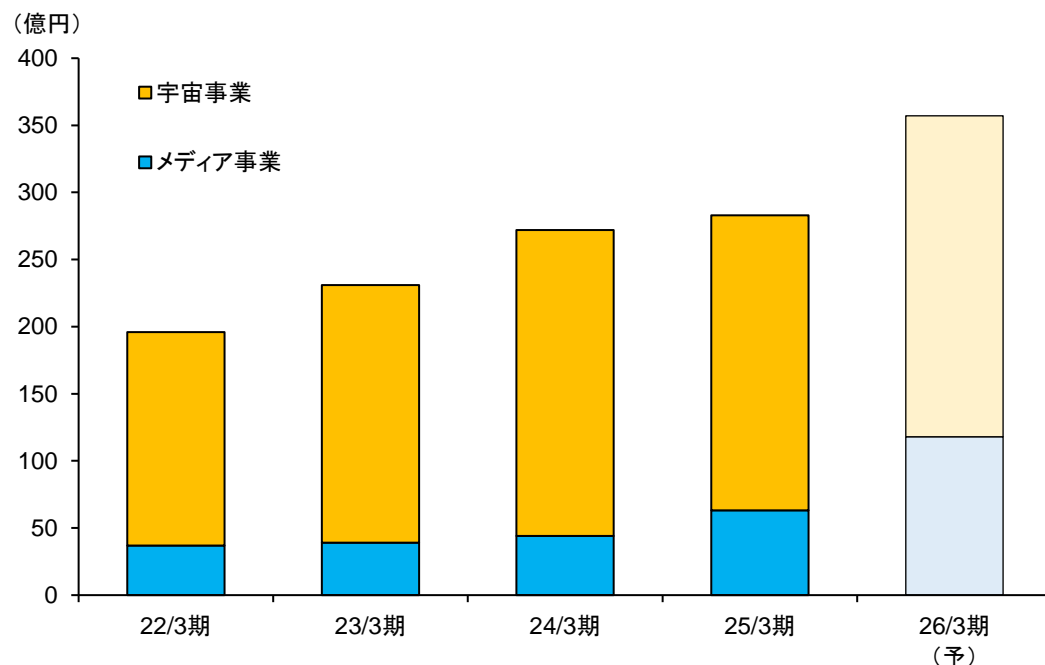
出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在

スカパーJSATホールディングス（9412 プライム）

Point !

- 日本で唯一&アジアNo.1規模の静止軌道通信衛星インフラを保有。現在17機を保有する
- 26/3期3Q累計は、前年同期比25%営業増益。オペレーション最適化に伴うメディア事業の採算性向上が貢献
- スペースインテリジェンスに注力。安全保障領域は31/3期までに売上約300億円へ（25/3期は約100億円）

▼セグメント別営業利益の推移



出所：会社資料 作成：岡三証券
※消去又は全社は考慮せず 予は会社計画、2月5日現在

▼株価チャート（週足）



出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在

今回の決算で注目したいポイント

三菱電機やパナソニックHDが通期会社計画の下方修正を発表

三菱電（6503）	最終利益を、従来の3,700億円→3,600億円に下方修正（25/3期は3,240億円）
パナソニックH（6752）	最終利益を、従来の2,600億円→2,400億円に下方修正（25/3期は3,662億円）

事業の撤退や売却を表明した主な企業

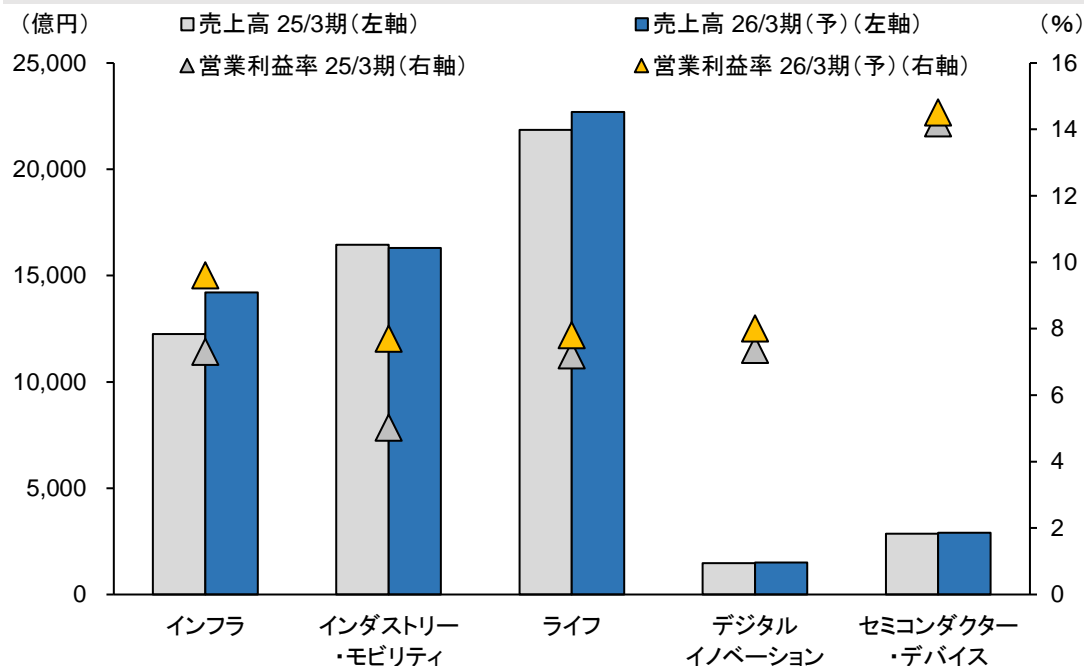
発表日	企業名（コード）	内容
2月2日	三菱ケミG（4188）	製鉄用のコークス（蒸し焼きの石炭）事業からの撤退
2月2日	THK（6481）	自動車部品事業を投資ファンドに売却すると発表
2月4日	空港ビル（9706）	三越銀座の免税店撤退
2月5日	ルネサス（6723）	電子回路を正常に作動させるためのタイミング部品事業を米半導体設計のサイタイムに売却

三菱電機（6503 プライム）

Point !

- 総合電機大手。近年は「データセンター」、「エネルギー」、「防衛」、「空調」など、材料が豊富
- 3Q決算に併せて通期業績見通しを下方修正。もっとも、人員構成最適化費用を除くベースでは実質上方修正
- 26/3期は、売上高で計8,000億円分の事業について撤退を視野に選別を進める。採算性向上が期待できよう

▼部門別売上高と、同営業利益率の推移



出所：会社資料 作成：岡三証券
※予は会社計画、2月3日現在

▼株価チャート（週足）



出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在

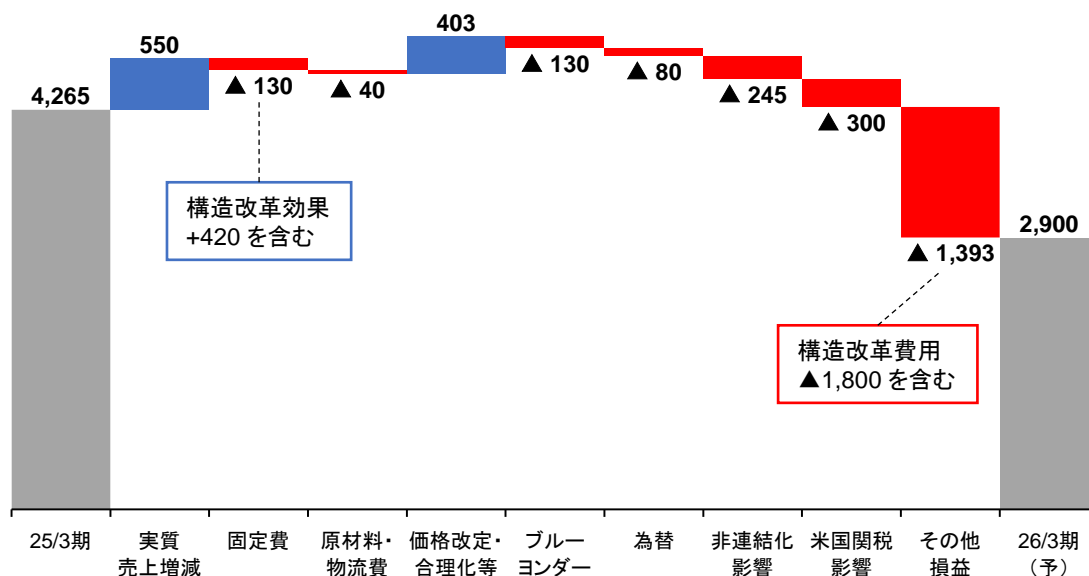
パナソニックホールディングス（6752 プライム）

Point !

- 26/3期3Q累計は前年同期比二桁減益となったほか、通期見通しを下方修正。主因は構造改革費用によるもの
- 聖域なき構造改革と事業ポートフォリオ改革を推進し、「稼ぐ力」の最大化へ
- 構造改革規模の拡大で、27/3期の構造改革効果は25/3期比で+1,450億円となる見通し

▼要素別営業利益分析

(億円)



出所：会社資料 作成：岡三証券
※予は会社計画、2月4日現在

▼株価チャート（週足）



出所：QUICK 作成：岡三証券 2月6日現在

重要な注意事項

免責事項

- ・本レポートは、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。また、本レポート中の記載内容、数値、図表等は、本レポート作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、本レポートに記載されたいかなる内容も、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本レポートは、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。企業が過去の業績を訂正する等により、過去に言及した数値等を修正することがありますが、岡三証券がその責を負うものではありません。
- ・岡三証券及びその関係会社、役職員が、本レポートに記されている有価証券について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。岡三証券の大量保有報告書の提出状況については、岡三証券のホームページ(<https://www.okasan.co.jp/>)をご参照ください。

＜有価証券や金銭のお預かりについて＞

株式、優先出資証券等を当社の口座へお預かりする場合は、口座管理料をいただきません。外国証券(円建て債券および国内の金融商品取引所に上場されている海外ETFを除きます。)をお預かりする場合には、1年間に3,300円(税込み)の口座管理料をいただきます。ただし、電子交付サービスを契約している場合には、口座管理料は1年間に2,640円(税込み)とします。なお、当社が定める条件を満たした場合は外国証券の口座管理料を無料といたします。上記以外の有価証券や金銭のお預かりについては料金をいただきません。証券保管振替機構を通じて他社へ株式等を口座振替する場合には、口座振替する数量に応じて、1銘柄あたり6,600円(税込み)を上限として口座振替手数料をいただきます。

お取引にあたっては「金銭・有価証券の預託、記帳及び振替に関する契約のご説明」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

＜株式＞

- ・株式(株式・ETF・J-REITなど)の売買取引には、約定代金(単価×数量)に対し、最大1.485%(税込み)(手数料金額が3,300円を下回った場合は最大3,300円(税込み))の売買手数料をいただきます。ただし、株式累積投資は一律1.485%(税込み)の売買手数料となります。国内株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・外国株式の海外委託取引には、約定代金に対し、最大2.3496%(税込み)の売買手数料をいただきます。外国株式の国内店頭(仕切り)取引では、お客様の購入および売却の単価を当社が提示します。この場合、約定代金に対し、別途の手数料および諸費用はかかりません。
- ※外国証券の外国取引にあたっては、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生します(外国取引に係る現地諸費用の額は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、その合計金額等をあらかじめ記載することはできません)。外国株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による株価の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・株式は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・また、外国株式については、為替相場の変動によって、売却後に円換算した場合の額が下落することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・REITは、運用する不動産の価格や収益力の変動、発行者である投資法人の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により価格や分配金の変動し、損失が生じるおそれがあります。

＜債券＞

- ・債券を募集・売出し等により、または当社との相対取引により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。なお、取引価格には、販売・管理等に関する役務の対価相当額が含まれております。
- ・債券は、金利水準、株式相場、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による債券価格の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・債券は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、債券価格が変動することによって損失が発生するおそれがあり、また、元本や利子の支払いの停滞もしくは支払い不能の発生または特約による元本の削減等のおそれがあります。
- ・金融機関が発行する債券は、信用状況の悪化により本拠所在地国の破綻処理制度が適用され、債権順位に従って元本や利子の削減や株式への転換等が行われる可能性があります。ただし、適用される制度は発行体の本拠所在地国により異なり、また今後変更される可能性があります。

＜個人向け国債＞

- ・個人向け国債を募集により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。個人向け国債を中途換金する際は、次の計算によって算出される中途換金調整額が、売却される額面金額に経過利子を加えた金額より差し引かれます（直前2回分の各利子（税引前）相当額×0.79685）。
- ・個人向け国債は、安全性の高い金融商品であります。発行体である日本国政府の信用状況の悪化等により、元本や利子の支払いが滞ったり、支払い不能が生じるおそれがあります。

＜転換社債型新株予約権付社債（転換社債）＞

- ・国内市場上場転換社債の売買取引には、約定代金に対し、最大1.10%（税込み）（手数料金額が3,300円を下回った場合は3,300円（税込み））の売買手数料をいただきます。転換社債を募集等によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・転換社債は転換もしくは新株予約権の行使対象株式の価格下落や金利変動等による転換社債価格の下落により損失が生じるおそれがあります。また、外貨建て転換社債は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

＜投資信託＞

- ・投資信託のお申込みにあたっては、銘柄ごとに設定された費用をご負担いただきます。
お申込時に直接ご負担いただく費用：お申込手数料（お申込金額に対して最大3.85%（税込み））
保有期間中に間接的にご負担いただく費用：信託報酬（信託財産の純資産総額に対して最大年率2.665%（税込み）程度）
換金時に直接ご負担いただく費用：信託財産留保金（換金時に適用される基準価額に対して最大0.5%）
その他の費用：監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等が必要となり、商品ごとに費用は異なります。お客様にご負担いただく費用の総額は、投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、記載することができません（外国投資信託の場合も同様です）。
- ・投資信託は、国内外の株式や債券等の金融商品に投資する商品ですので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が下落することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資信託は、組入れた有価証券の発行者（或いは、受益証券に対する保証が付いている場合はその保証会社）の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が変動することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・上記記載の手数料等の費用の最大値は、今後変更される場合があります。

＜ファンドラップ＞

手数料等の諸費用について

ファンドラップにおいて、直接お支払いいただく費用は、保有する、当社が運用方針に則して選定した国内公募投資信託（以下「投資対象ファンド」といいます。）の時価評価額に対して最大1.65%（年率・税込み）となります。投資対象ファンドは、ほかの投資信託を投資対象とするファンド・オブ・ファンズとなっており、実質的な費用は、投資対象ファンドの信託報酬に最終投資先の運用管理費用（信託報酬）等を加算した費用を間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご確認ください。

主な投資リスクについて

投資一任契約とは、当事者の一方が、相手方から、金融商品の価値等の分析に基づく投資判断の全部または一部を一任されるとともに、当該投資判断に基づき当該相手方のための投資を行うのに必要な権限を委任されることを内容とする契約です。

- ・投資対象ファンドは、実質的に国内外の値動きのある有価証券等により運用を行いますので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による組入れ有価証券の値動き等に伴い、投資対象ファンドの基準価額も変動します。これらの要因により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資対象ファンドに実質的に組み込まれた株式や債券等の発行者の倒産や信用状況等の悪化により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。

＜信用取引＞

信用取引には、約定代金に対し、最大1.485%（税込み）（手数料金額が3,300円を下回った場合は最大3,300円（税込み））の売買手数料、管理費および権利処理手数料をいただきます。また、買付けの場合、買付代金に対する金利を、売付けの場合、売付株券等に対する貸株料および品貸料をいただきます。委託保証金は、売買代金の30%以上で、かつ300万円以上の額が必要です。信用取引では、委託保証金の約3.3倍までのお取引を行うことができるため、株価の変動により委託保証金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

○2037年12月までの間、復興特別所得税として、源泉徴収に係る所得税額に対して2.1%の付加税が課税されます。

○金融商品は、個別の金融商品ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。金融商品取引のご契約にあたっては、あらかじめ当該契約の「契約締結前交付書面」（もしくは目論見書及びその補完書面）または「上場有価証券等書面」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。ファンドラップの申込みの際には「岡三UBSファンドラップ契約関連書面集」で契約内容をご確認ください。

○自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。

【日本以外の地域における本レポートの配布】

・香港:本レポートは、香港証券先物委員会(SFC)の監督下にある岡三国際(亜洲)有限公司によって、SFCに規定される適格機関投資家(PI)に配信されたものです。本レポートに関するお問い合わせは岡三国際(亜洲)有限公司にお願いします。

・米国:本レポートの作成者は、米国の証券業界の自主規制機関(FINRA)にリサーチ・アナリストとして登録されておらず、リサーチレポートの作成およびアナリストの独立性に関する米国規制の適用を受けません。第三者による本調査レポートは、1934年証券取引所法規則第15a-6条(改正を含む)に定められる主要米国機関投資家(Major US Institutional Investors)に対してのみ、米国の証券会社であるWedbush Securities Inc.(1934年証券取引所法第15条に基づき登録、以下「Wedbush」といいます。)により、米国内で配布されます。Wedbushによる米国内の本レポート配布に関してはWedbushが全責任を負うものといたします。本レポートは、いずれかの管轄区域内の法令等によりWedbushが本レポートの提供を禁止または制限されている投資家を対象としたものではありません。本レポートを閲覧する前に、Wedbushが関連法令・規制に基づいてお客様に投資関連資料を提供することが許可されている旨をご自身でご確認ください。

本レポートを受領・閲覧し、記載されている証券の取引を希望する米国内の投資家は全て、本レポートの発行者ではなく、以下の者と取引を行う必要があります: Wedbush Securities Inc., 1000 Wilshire Blvd, Los Angeles, California 90017, 電話番号+1(646)604-4232。

・その他の地域:本レポートは参照情報の提供のみを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。本レポートの受領者は、自身の投資リスクを考慮し、各国の法令、規則及びルール等の適用を受ける可能性があることに注意をする必要があります。地域によっては、本レポートの配布は法律もしくは規則によって禁じられております。本レポートは、配布や発行、使用等を行うことが法律に反したり、岡三証券に何らかの登録やライセンスの取得が要求される国や地域における国民や居住者に対する配布、使用等を目的としたものではありません。

※本レポートは、岡三証券が発行するものです。本レポートの著作権は岡三証券に帰属し、その目的いかんを問わず無断で本レポートを複写、複製、配布することを禁じます。

岡三証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

(2025年12月改定)